

教育委員会の出前講座に参加して

若草 後藤彩子

昨年11月21日に「きぼーる」内で行われた、千葉市教育委員会の出前講座に参加しました。

小学生の子を2人持つ母親ですが、今まで教育委員会というものは学校や先生方に不満があった時に文句を言う為の所、としか考えていませんでした。とりあえず自分の子供たちは大した問題もなく小学校生活を過ごしてきたこともあり、個人的に用のないお役所窓口であったわけです。



今回は「千葉市の子どもたち」にどのよう大人に育って欲しいか？ 夢・未来・青少年プランちば」についての講座でしたが、話はあちこちに波及、ちよつとした盛り上がりでした。教育と子どもたちの現状を再認識することも出来、教育委員会を身近に感じました。機会があれば、是非、皆さんに参加して頂きたいと思う、楽しい出前講座でした。

千葉市にも夜間中学を
市川市大洲中学校見学

小西 由希子



夜間中学は国籍や年齢にかかわらず誰でも学べ、全国に36校約3,500人が学んでいるそうです。千葉県に夜間中学は1校だけ。昭和57年学校建設時に開設され、現在生徒は33人。そのうち16人が千葉市からです。

他の政令市では川崎市1校、横浜市5校、京都市1校、大阪市4校、堺市1校、神戸市2校、広島市2校。千葉市では第2次5か年計画で中学校夜間学級設置の検討をおこなっているところだ。

今は海外からの帰国者やその家族、在日外国人が多いようですが、それに加え昼間の学校に行けない生徒が夜間中学ならと通えるようになった例もあると聞きました。年齢の問題もあり簡単ではありませんが、こうした子どもたちの受け皿としてももっと知ってほしいと教頭先生が話しておられました。千葉市にも早急に具体的な検討に入ること

働くルールを学んでほしい
高校生

一般質問から 若葉区市議 山田京子

県立横橋(こてはし)高校では、半年以上のアルバイト経験生徒が約7割で、労働法など働くルールを具体的に授業に取り入れており生徒にも好評と聞きました。市では市内在住高校生のアルバイト実態は把握しておらず、二つの市立高校のアルバイトの申請状況は全生徒の約1%(!)とのこと。内緒でアルバイトをしている生徒が、理不尽な労働環境に苦しんでいることも予想され、働くルールを生徒全員に授業の中で習得させることが時代の要請ではないか、アルバイトの許可制はやめ、申請してきた生徒にはしっかりとルールを教えるべきではないかと問いました。市は授業を増やす考えはないようでしたが、申請時にはきめ細かく指導するとの回答を得ました。一方、高校に行っていない子どもたちへの労働教育も忘れてはならず、その

実態の把握と施策を求めました。

千葉市ではこれからの教育の方向と具体的な内容を定める「学校教育推進計画」を策定中です。公表される計画案に対して、皆さんもぜひパブリックコメントで意見を寄せましょう。教育委員会のホームページもご覧ください。中央区ネットでは11月に出前講座を開催し、1月30日に2回目をおこないます。

経済教育委員会視察報告

平成21年1月14日～16日 小西由希子

ビジネス支援の図書館(御幸町図書館) 静岡市

仕事に役立つビジネス支援、外国人住民への多言語(多文化)サービスに特に力を入れている。駅前ビルにあってサラリーマンも多く利用している。英語・中国語・ポルトガル語・ハンガルの4ヶ国語の絵本や雑誌、地図、料理の本など、生活に密着した資料が置かれている。派手な国際交流より、自国の文字に触れる安心感は、何よりのサポートであろう。



ビジネス関係の雑誌のコーナー

市単独で教員を採用 堺市

「ぜひ堺市の先生になりたい」と希望する人を採用しようと、21年度初めて市教員単独採用選考を開始。小学校と幼稚園、小・中学校、中・高等学校、また特別支援学校などの複数免許所有者を積極的に採用したいとしている。

教員志願者を対象に堺・教師ゆめ塾を開催。「堺市の人権教育について」「堺市のめざす教育」「学級経営」など1年で12回、現場研修もある。団塊世代の大量退職で、教員採用数が増える中、よりよい先生を確保していこうとの教育委員会の熱意を感じた。

選挙管理委員の仕事



委員は市・区それぞれ4名ずつ。会議は月1回。どんな活動なのか、新旧お二人の委員からお話を伺いました。

去年まで委員をしていました・・・定例会は事務局から有権者数などの説明を聞いて、サインをして終わり、30分くらいで終了。選挙前には1時間くらい駅前までチラシ配りをした。仕事と言う仕事は・・・う～ん。

新しく委員になりました・・・会議では質疑も多く1時間くらいかかる。報酬については高いかな?と思った。投票率が上がるような提案をしていきたい。去年夏、千葉市インターネットモニターアンケートで「選挙の投票動機調査」がおこなわれ、調査結果がでている。アンケートの結果をどう生かすかも考えたい。



安心してお産ができる体制づくりのための提案

周産期医療崩壊の危機を防ぐために産科医増員は不可欠ですが、同時に今ある資源の効率的な活用が重要です。ここでは三つの提案をしたい。

一つ目は産科医が異常の対処に集中できる体制を作る事です。具体的には、正常産は助産師だけでお産を取り上げる体制を作ったり、医療クラーク(医師の事務の補助)を導入したりする事が挙げられます。

二つ目は女性が働きやすい環境を作る事です。出産育児のために仕事を離れる女性医師や看護スタッフは少ない。労働環境の改善で職場復帰してもらえれば、大きな力になります。

三つ目は病院の集約化です。日本は欧米に比べて小規模な病院が多く、高度な医療を提供する事が難しい状況です。集約化で病院当たりの医師数も増えその負担も軽減されます。 NPO 法人お産子育て向上委員会 小林哲朗

いざというとき大丈夫?

アンケートにご協力ください

平成18年災害時要援護者対策ガイドラインができ、災害弱者への対策が求められています。千葉市でも今年度「災害時要支援者名簿システム」を整備し、一人暮らし・要介護3以上のお年よりや、障がいをお持ちの方について、火災時半径50m以内の方を消防局が支援するというものです。社協寒川地区部会では、「災害弱者を対象とした支援者マップ、安心カードづくり」等に取り組み、一人暮らしのお年寄りにご本人の同意を得ながら民生委員さんが進めていくと聞いています。(福祉総務課)

中央区地域福祉計画にも、「見守り体制をつくり、いざという時に近所で助け合えるようにする」と盛り込まれていますが、まだ進んでいません。



料金受取人払郵便

千葉支店 承認 648

差出有効期限 平成22年10月31日まで (切手不要)

郵便はがき

2608790

千葉市中央区中央3-13-17

市民ネットワークちば・中央 行

千葉市政についてご意見をお書きください

アンケートの集計をお返しますので、よろしかったらお書きください

お名前 TEL

ご住所